

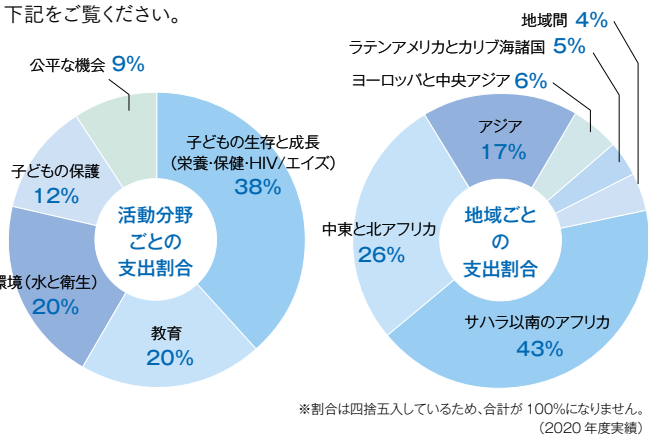
for every child

すべての子どものために

皆さまからのご寄付が 子どもたちの大きな支えとなっています

ユニセフの総収入の内、21%が世界中の民間の皆さまから寄せられたご寄付でした。

また活動分野、地域ごとの支出（合計 57 億 1,500 万米ドル）の内訳は下記をご覧ください。



ユニセフと各国ユニセフ協会（ユニセフ国内委員会）

ユニセフ（国際連合児童基金）は、世界中のすべての子どもたちが健やかに育ち、生まれ持った可能性を十分に伸ばすことができる世界の実現を目指す国連機関です。国連本体から資金協力を受けることなく、子どもたちのための支援は、皆さまからお預かりしたご寄付と各国政府などからの任意の拠出金により成り立っています。また、世界 33 の先進国・地域には、民間におけるユニセフ支援の公式の窓口であるユニセフ協会が置かれており、ユニセフとの協力協定に基づき、ユニセフを支える募金活動、ユニセフや世界の子どもたちの広報活動、子どもの権利の実現を目指して行なうアドボカシー活動に取り組んでいます。

各国ユニセフ協会における国内事業も皆さまからのご寄付に支えられています。当協会の収支報告については「日本ユニセフ協会の活動」欄をご覧ください。



子どもたちのためのあたたかい ご寄付をお願い申し上げます

ユニセフ募金

郵便局（ゆうちょ銀行）から

全国の郵便局（ゆうちょ銀行）からお振込みいただけます。窓口でのお振込みの場合、振込手数料が免除されます。

振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会

インターネットから

パソコン・スマートフォン（www.unicef.or.jp）からクレジットカード、インターネットバンキング、コンビニ支払い、電子マネー（楽天 Edy）でご寄付いただけます。



ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム

毎月ご任意の一定額を金融機関（銀行・信用金庫・ゆうちょ銀行等）の口座、またはクレジットカード決済による自動引き落としでご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」にぜひご参加ください。

世界の子どもたちの状況やユニセフの活動についてご報告する広報誌「ユニセフニュース」（年4回発行）をお送りいたします。お申込みは当協会ホームページまたはフリーダイヤルへ。



※公益財団法人日本ユニセフ協会へのご寄付は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、法人税の控除対象となります。

ユニセフハウスへお越しください

開発途上国の保健センターや教室、緊急支援用テントなど、ユニセフの支援現場を再現したユニセフハウス。世界の子どもたちの暮らしやユニセフの活動を学びに、ぜひお立ち寄りください。JR 品川駅または地下鉄都営浅草線高輪台駅から徒歩 7 分。

開館日・時間 平日 10:00~17:00*

※新型コロナウイルス対策のため、第 2・4 土曜日は休館しております。今後も変更となる場合がございますので、ご来館の際は事前にご確認をお願いいたします。

公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス

フリーダイヤル：0120-88-1052（平日 10:00~17:00*）

※新型コロナウイルス対策のため、お電話での受付時間を短縮しております。

ホームページ：www.unicef.or.jp

Twitter(ツイッター) / Facebook(フェイスブック) / Instagram(インスタグラム)もご覧ください。

@UNICEFinJapan @unicefinjapan

2021年版

ユニセフ活動報告



世界の子どもたちへあたたかい
ご協力をありがとうございます

unicef

日本ユニセフ協会の活動



募金活動

当協会では、インターネットやダイレクトメールによる都度のご寄付に加えて、ご自身で決めていただいた一定額を毎月自動引き落としでご寄付いただく「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」を受け付けています。また、お選びいただいた支援物資を子どもたちに届ける「ユニセフ支援ギフト」や、「ユニセフ遺産寄付プログラム」、「外国コイン募金」、ご自身でプロジェクトを立ち上げてご寄付を集めていただく「フレンドネーション」といった、様々な方法でご寄付を呼びかけています。

加えて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行で厳しい状況に置かれている開発途上国の子どもたちのための「新型コロナウイルス緊急募金」等、緊急・復興支援のためのご寄付の受付を続けています。また、本年も国内での感染状況に鑑み、皆さまにボランティアとして募金活動にご参加いただく「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」をオンラインにて開催しました。

皆さまからの多くのあたたかいご寄付に
厚く御礼申し上げます。



広報活動

ユニセフのこと、世界の子どもたちのことを、皆さまに広く知っていただくために、ユニセフ本部や各国の現地事務所とも連携し、テレビや新聞など各種報道媒体に対する情報提供や、取材協力などを積極的に行いました。また、ユニセフ本部や現地事務所から日々発信される情報を日本語に翻訳し、報道機関に提供。ホームページや SNS などでも紹介しています。

COVID-19 のパンデミックが 2 年目に入った 2021 年も、COVID-19 や新型コロナウイルスワクチンに関する重要な情報を継続的に発信しました。

4 月には、COVID-19 が世界の子どもたちに及ぼしている深刻な影響について、世界各地で活動する様々な分野の日本人職員をオンラインで繋ぎ報告するオンライン報告会を開催しました。また、ワクチンの公平な分配を目指す国際的枠組み『COVAX ファシリティ』が本格的にスタートしたことを受け、ユニセフが担っているワクチンの調達・供給・輸送に関する情報を積極的に発信し、その重要性の広報・啓発に努めました。



オンライン報告会の様子



アドボカシー（政策提言）活動

昨年大きな反響を呼んだ『レポートカード 16』が示した日本の子どもの精神的幸福度（Well-being）の低さは、4 月に決定された「子供・若者育成支援推進大綱」でも引用されました。引き続き SDGs 副教材を全国の中学校等に配布したほか、SDGs ターゲット 16.2 の達成をめざし政府が進めてきた「子どもに対する暴力撲滅行動計画」の策定過程に参加し、同計画の「子ども版」作成に協力しました。子どもへの性暴力の撲滅に向けた官民の取り組みにも引き続き参加しています。

ユニセフが各国で進める「子どもにやさしいまちづくり事業」は、5つの地方自治体の協力で進めてきた検証作業を終了し、日本型モデルの本格実施を開始しました。先進国の子育て支援策を比較した報告書の制作にも参加。2018 年に発表した「子どもの権利とスポーツの原則」への賛同の輪もさらに広がり、原則に準じた独自の施策が導入されるなど、子どもたちのためのスポーツ界の新たな取り組みにもつながっています。



2020年度収支報告

当協会は、皆さまからお預かりしたご寄付のうち、83.1%にあたる 186 億 2,000 万円を本部に拠出することができました。この拠出額・拠出率は、各国ユニセフ協会の中で極めて高く、世界の子どもたちのためのユニセフの支援活動に大きく貢献しています。

またユニセフは、各国で集められたご寄付の最大 25%の範囲内で、世界の子どもたちの状況をより多くの人たちに知っていただき、ユニセフ支援の輪を広げるための活動を各国ユニセフ協会に委ねています。2020 年

当協会は、皆さまからお預かりしたご寄付の 16.9%で、国内での募金・広報・アドボカシー活動や国際協力に携わる人材育成活動などを実施しました。今後も効率的な事業推進に努めてまいります。



収入内訳（公益目的事業会計）

経常収益計
22,472,191,370円

会費 29,142,000円
寄付金 41,228,818円

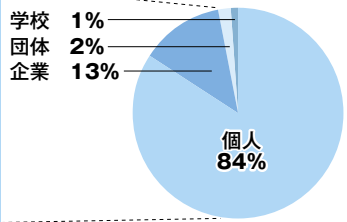
募金 22,400,880,321円

雑収益ほか 940,231円

詳しい財務諸表等は当協会ホームページで公開しております。なお、2021 年度の収支報告は、2022 年 4 月に当協会ホームページなどでご報告予定です。

ユニセフ募金
22,400,880,321円

支援者別内訳



支出内訳（公益目的事業会計）

経常費用計
22,485,274,943円

ユニセフ本部へ拠出 82.8%
(ユニセフ募金の83.1%)

日本国内における募金・広報・アドボカシー活動のための事業費 17.2%

うち、事務運営費および人件費(※) 2.3%

※ 新公益法人会計基準に則り、公益目的事業会計の各事業費に配賦されている、事務運営費（正味財産増減計算書の光熱水費、火災保険料、施設管理料、建物減価償却費、什器備品等減価償却費）及び人件費（給料・報酬、福利厚生費、退職給付費用、賞与引当金繰入額）。詳しくは正味財産増減計算書をご覧ください。

※1 募金関連資料の作成・送付、領収書の作成・郵送料、募金の受領・領収書発行に伴う決済システムの維持管理、活動報告の作成など
※2 ユニセフ本部と各国内委員会が共同で行なう各種キャンペーンに対する分担金
※3 「世界子供白書」「ユニセフ年次報告」などの刊行物の作成・配付、ホームページの作成・更新、現地報告会やセミナー・シンポジウム開催、広報・アドボカシー・キャンペーンなどの費用
※4 全国26の協定地域組織による広報・啓発活動関係費
※5 国際協力に携わる人材育成にかかる費用

募金活動事業費^{※1} 13.01%
本部業務分担金^{※2} 2.40%
啓発宣伝事業費^{※3} 1.35%
啓発宣伝地域普及事業費^{※4} 0.41%
国際協力研修事業費^{※5} 0.02%

子どもたちへの成果

皆さまのご寄付で、子どもたちのかけがえのない未来と笑顔が守られています



教育 ラジオが繋ぐ教育 マリ

マリ北・中部地域の治安の悪化で、長引く人道危機の悪化に拍車がかかり、15万人以上の子どもたちが避難を強いられています。ユニセフはパートナー団体との協力のもと、子どもたちが安心して教育を継続できるよう、太陽光発電式ラジオを各家庭や避難所内の仮設学習スペースに配布し、ラジオの使用状況や学校での勉強の進み具合を確認するためのモニタリングを実施しています。

アイシャタさん（15歳）は、故郷のセグー州中南部の町ディアバリーの学校が閉鎖されたため、州都セグーのアダマ・ダニョン学校に転入しました。「学校以外でも授業を受けられるように太陽光発電式ラジオが配布されたおかげで、勉強の遅れを取り戻すことができました」と笑顔を見せます。今は週2回、夕方に友達と一緒にラジオで勉強しています。

アイシャタさんの夢は、校長になり、子どもたちが学校に通えるよう手助けすることです。「マリのすべての子どもが学校に通えるようになるというのは壮大な目標ですね。でも、いつか叶うと信じています」



右から2番目がアイシャタさん



公平な機会 デジタル技術で開かれる未来 ヨルダン

ヨルダンでは就職に情報通信技術（ICT）が益々重要となる一方、女性や学校に通っていない若者、難民等の弱い立場に置かれている若者たちは、就職に必要な知識や技術の習得の機会がありません。

ヨルダン北部のザータリ難民キャンプで暮らすシリア難民のハラさん（15歳）は、学校では学べないコンピュータやモバイルアプリケーション*、ビデオ編集等の新しい知識と技術を身につけるため、ユニセフが支援するプログラムに参加しました。新型コロナウイルス感染症の拡大で突然デジタル学習が始まった時には、クラスメートが問題なく参加できるよう、パソコンの電源の入れ方からエクセル等のプログラムの使い方までSNSを通じて教えました。

「ヨルダンで学んだデジタル技術を基に、人々を助けられるものを発明したいです。十分な能力を身につけることができたら、コミュニティの女性や子どもを対象とした独自の研修プロジェクトを立ち上げられると嬉しいです」と話すハラさんは、未来を見つめています。

*スマートフォンやタブレット型端末向けのソフトウェア



© UNICEF/Jordan/2021/VII Photo



子どもの生存と成長 コロナ禍での健やかな成長 ザンビア

ユニセフとパートナー団体の支援を受けた乳幼児の発達センターでは、定期的実施する集まりを通じて、遊びを通じた子育てやレスポンスケア*の促進、栄養改善等、乳幼児期に必要なサービスを提供しています。

一方、新型コロナウイルス感染症の流行は親や養育者に心理的な負担を与え、子どもの健康な脳の発達と互いのつながりを強めるために重要な、乳幼児期の遊びを通じた触れ合いが不十分になることが懸念されています。しかし、発達センターでの学びはコロナ禍でも効果的に活用されています。研修を受けたボランティアが各家庭を訪問し支援を続けているからです。

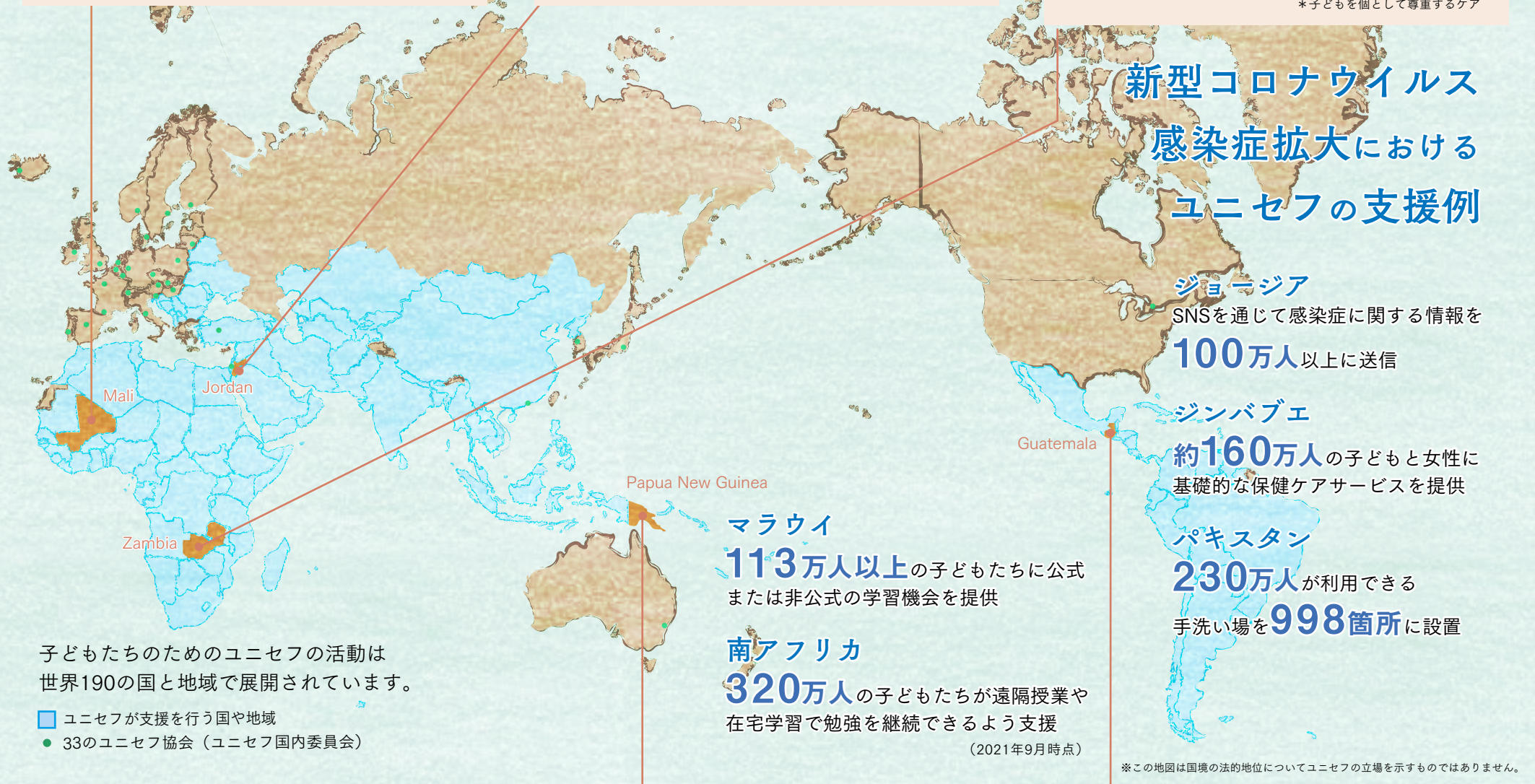
東部州カタテ地区ホロワ村に暮らすファウスティナさんは、発達センターで学んだ1人です。「年齢に合ったおもちの大切さや適切な食事習慣等、多くを学びました。集まりが中止になっても私たちが教わったことを忘れず、また正しく実践できるように、定期的に訪れるボランティアの存在はとても有難いです」

未曾有の事態の中でも、子どもの健やかな成長のための奮闘は続きます。

*子どもを個として尊重するケア



© UNICEF/Zambia/2021/Siakachoma



環境(水と衛生) 適切な衛生習慣がもたらす健康 パパニューギニア

「今まで手洗いが重要だと思ったことはありませんでした。手についた細菌や、排泄物にとまったハエが食物を汚染することが病気を引き起こすことを知らなかったのです」

ハーゲン中央地区のパープル地域リーダーのジョン・ドゥビさんの言葉です。慢性的に水が不足しているパープルでは、多くの家庭で手洗いよりも料理や飲み水に水の利用が優先され、トイレよりも近くの茂みで排泄の方が都合が良いと考えられていました。

しかしジョンさんたちは、ユニセフとパートナー団体による水と衛生プログラムを通じて、衛生習慣の大切さや、簡易手洗い設備であるティッピー・タップ*の作り方を学びました。今では手洗いが家族の習慣となり、息子のヤウィ・ジョンくん（7歳）もティッピー・タップで手を洗います。さらに、各家庭に適切なトイレが設置されました。ジョンさんは衛生習慣の改善を推進し、今では地域全体が屋外排泄ゼロを達成したことを誇りに思っています。

ユニセフは子どもたちの健康な生活のため、コミュニティを巻き込む形で支援を継続します。



© UNICEF/Papua New Guinea

*水を入れたポリタンクを糸で結び、手洗いができるようにした設備



子どもの保護 子どもらしく過ごすために グアテマラ

「お父さんはあのお店で農作物を売っていたの」とファナちゃん（9歳）は、洪水に飲み込まれた故郷の町をボートに乗って進みます。「あれが家の台所だったと思うけどよく思い出せない。ここが門だったかな」

数週間前まで豊かな自然が溢れていたアルタ・ベラパス州の町カンブールは、ハリケーンで発生した地滑りと大規模な洪水で今や跡形もありません。町を覆う水面から送電線や街灯が見え隠れします。

ファナちゃん一家が暮らす、地元の小学校に設置された仮設避難所では、ユニセフが石けんや歯ブラシ等の衛生キットの配布や、栄養不良の子どものスクリーニング、フラフープや人形等を使ったレクリエーションを実施しています。レクリエーションは子どもがトラウマを解消するために有効であると同時に、カウンセリングを必要とする子どもを特定することもできます。

ファナちゃんが避難所で楽しそうに遊んでいます。生活が一変した子どもたちは、子ども同士の遊びを通じて日常を取り戻すことができるのです。



© UNICEF/Guatemala/2019/Volpe